



24歳のビッグダディ in ウガンダ!
(放映当時)



スタロン・ルゴンダくんのご紹介

2024年7月22日テレビ東京【YOUは何し日本に?】の放映から多くの皆様が注目して下さることとなり、関係者の方々に深く御礼を申し上げます。そして、ウガンダの「YOU」こと、スタロン・ルゴンダ君のことをもっと知りたい!という方々のために、支援メンバー有志でこの資料を制作いたしました。

また、支援活動にご協力をいただける方は、次のページ「奨学金サポーター大募集!」をぜひご一読くださいませ。

制作：日本支援チーム有志 / 更新日：2024年8月1日



「奨学金サポーター」大募集！

<http://scholarship.unityhouseuganda.org>

ウガンダは学費が高く、子どもの就学率が低い国です。学校によって違いもありますが、例えば中学生にもなると、年間の学費は10万円以上。学費以外にも、多くの指定学用品や掃除用具など持参しなければならず、それらが購入できないと通学を諦めざるをえないのが現状です。

Unity House Uganda（以下UH）の子どもたちが教育を受けられるよう、日本から奨学金を送るサポーター制度が2024年1月にスタートしました。2024年7月現在、UHの全員が学校に通うことができます。

現地からはスタロン君が随時子どもたちの様子をレポートしてくれています。

詳細は上記のWebページをご覧ください。

「僕が尊敬している人物は、キング牧師。

"あなたは他の人のためや自分の国のために何をしたのか？"

という彼の問いかけをいつも思い出している。

僕はストリートチルドレンや孤児たちの

ロールモデルになり、彼らに希望を与えたい。」

—スタロン・ルゴンダ



【 目次 】

- Part 1. スタロンくんってどんな人？
- Part 2. Unity House Ugandaのご紹介
- Part 3. 日本の支援チームのご紹介
- Part 4. 今回の日本訪問について
- Part 5. 2024年7月現在の現地の様子

Part1. スタロンくんってどんな人？①

子どもが大好き！

異国だろうが、初対面だろうが、出会った瞬間から子どもたちと全力で遊ぶスタロン君。日本滞在中も、どこに行っても子どもたちに大人気でした。

誰よりも働く！

長距離ドライバー、養鶏、農業、庭仕事、大工仕事…40人の子どもたちを養うために、たくさんの仕事を覚え、本当によく働くお父さんです。

何でも作れる！

家具も、黒板も、ひよこ小屋も、何でも作ってしまうスタロン君。過去には仲間たちとレストラン一軒丸々手作りしたことも。

初対面でもあっという間にこの様子！



Part1. スタロンくんってどんな人？②



過酷なストリート生活で芽生えた 「子どもたちを救いたい」という思い

TVでの紹介にあった通り、スタロン君は貧困地域のシングルマザーのもとに生まれ、7歳の時に親戚の家に引き取られました。そこでの、労働力として扱われる毎日と暴力に耐え切れず、11歳の時に家を出てストリートチルドレンに。ストリート生活は、ドラッグ、飲酒、犯罪に溢れていて、「人格を変えられてしまう」ような世界だったと言います。そこでの過酷なサバイバル生活に負けず、たくさんの仕事をこなして成長した彼は、自力で苦境から抜け出し15歳で一部屋を借りることに。そのときに、一緒に路上にいた自分より若い少年2人を家に誘い入れたのが、現在の活動の始まりです。このうちの1人は、現在スタロンくんの右腕としてUnity Houseで働いています。

「人は居場所がないと、他人や自分自身を傷つけてしまうもの。だから僕は、彼らに家族を与え、居場所を与えたかった。」
ースタロン・ルゴンダ

Part2. Unity House Ugandaのご紹介



子どもたちが「生きていく力」を身につけられる家

子どもたちに衣食住と学習環境を提供するだけでなく、スタロンくん自身の経験から、子どもたちが自力で生きていけるための様々なスキルを教えられる場所を作りたいというのが、スタロンくんの夢。スタロンくんと40人の子どもたちと一緒に暮らす「Unity House Uganda」では、様々なプロジェクトが始動しています。

養鶏プロジェクト 日本からの支援で鶏を60羽近く買い付けてスタートした養鶏。そこで生まれたひよこ達も、今は立派なニワトリです。

農業プロジェクト おいしい野菜が育つ方法を、実際に敷地内で育てながら子どもたちに教えます。自分たちで収穫した野菜の味は格別！

ものづくり 子どもたちが遊べる秘密基地を作ったり、皆で使う黒板や椅子を手作りしたり。子どもたちと一緒に様々な物を作っています。

Part3. 日本の支援チームのご紹介

スタロンさんと日本との関係は、2023年7月、NGOゴスペル広場（別名GQ Family）代表のジェンナとスタロンさんがオンライン上で知り合ったことから始まりました。NGOゴスペル広場は、ゴスペルを歌うグループを全国各地で運営し、その収益の一部で国際協力を行う団体です。出会った当時、スタロン君と子どもたちは水道も井戸もトイレもない小さな村で暮らしていました。彼らを助けようとジェンナが自身のメンバーに呼びかけ、その寄付によってトイレや井戸が建設されました。

20年以上国際協力を行ってきたジェンナを驚かせたのは、スタロン君の超マメな映像報告。着金の当日に、「今、建築資材の買い物にきている」とビデオ通話があり、翌日からは「今井戸を掘っている」という現場からの実況中継。トイレや井戸完成の際には日本とウガンダとをZOOMでつなぎ、子どもたちの笑顔とともに完成を祝うことができました。

同年10月、大きな邸宅を安く使わせてもらえる話が舞い込み、トイレと井戸を村へ寄贈して、スタロンくんたちはJinjaという町へ引っ越しました。この場所をジェンナが12月に訪問、子どもたちと対面を果たしたことをきっかけに、「奨学金サポーター」制度が生まれました。現在はこの奨学金サポーターの中の有志を“支援チーム”と呼ぶかたちになっています。



2023年12月に現地を訪問したジェンナ

Part4. 今回の日本訪問について①

日本招待の経緯

今回の日本への旅は、スタロンくんが「日本の母 (Japanese mother)」と慕うジェンナの招待で実現しました。今年に入り、立て続けに辛い出来事に襲われたスタロン君。これまで決して弱音を吐くことのなかった彼が、自信を失い、「善いことをしてきたつもりだったのに、自分の選んだ道は失敗だったのかもしれない」という言葉を口にしました。その状況の一部始終を見てきたジェンナが、日本から彼を応援してきた人たちに直接会わせたいと思い立ち、今回の来日に至りました。

「愛されること」を体験できた日本滞在

TVの中にあっただ、エスカレーター、高いビル、エレベーターといった初体験もそうでしたが、彼自身にとって最も大きかった初体験は「愛されること」だったと言います。たくさんの差し入れに対して「これまで、食べ物を隠された経験はあったけど、食べ物をもらった経験はなかった」と涙を浮かべ、お土産のひとつひとつ、励ましの言葉一言一言に深くお礼を言うスタロン君に、日本の私たちも涙を流さずにはいられませんでした。



YouTube掲載映像：

【スタロンくん初来日】みんなが買ってくれたUHグッズ到着！+涙のコメント

Part4. 今回の日本訪問について②

東京生活体験

日本での生活は、民泊にひとりで泊まり、日本の同年代の若者が暮らすような部屋でのリアルな東京一人暮らし体験でした。牛丼や天ぷらなど日本食にもたくさん挑戦し、箸も上手に使えるようになりました。一番の好物は、ファミチキでした（笑）一番テンションMAXなスタロン君を見ることができたのは、憧れてやまなかった日本車メーカーのショールームでした！

また、町で見かける家族団欒の姿は、「ファミリー」を知らずに育ったスタロンくんの心に、驚きと、子どもたちとの接し方についての気づきをもたらしました。

電車移動の際には、人身事故のアナウンスにも出くわし、日本の自殺率の高さについても知ることとなりました。便利なものが揃っていて天国のような日本で自殺する人がいるという事実衝撃を受け、人生で最も大切なことは何かという議論に発展しました。その答えは、「愛されること」と、「居場所があること」。



Part5. 2024年7月現在の現地の様子

「30日後に強制退去」の通告

実は来日中に、ウガンダの大家から強制退去の通告を受けると言う出来事がありました。この日から一睡もできなくなってしまったスタロン君の様子は、YouTubeにも「一睡もできなかったスタロンくん」という映像で掲載しています。借り手の権利が守られないウガンダで、「子どもが多すぎる」などの理由でスタロン君たちはこれまでも何度も強制退去に遭い、場所を転々とし、子どもたちは転校を繰り返してきました。立ち退きの際に育てていた豚を殺されたり、立ち上げたレストランを潰されたりしたこともあるという、彼のこれまでの経験について、今回私たちも詳しく話を聞くことができました。

もう誰にも奪われない僕たちの居場所 「新Unity House」の建設へ

この事態を受け、ジェンナ主導のもと緊急募金を実施され、集まった資金で土地を購入できました。現在そこで家の建設が進められています。現地から届く実況映像を、YouTubeの「緊急支援報告」というプレイリストにまとめておりますので、是非ご覧ください！

